

「ひらがな」でほどく如是我聞 - 1 「ほど(解)け」と「ゆる(緩)め」

野口三千三さんは、漢字伝来以前の話し言葉文化を支えた和語(やまとことば)とからだの動きに注目し、『野口体操からだに貞く』(柏樹社、1979年)を著しました。同書には【からだを「ゆるめる(弛・緩)。ほぐす(解・放)」ということの実感をつかむ】ために、コバの力を借りて「ゆるめ・ほぐし」を体感する方法が紹介されています。

ひとつは【「ゆるめ」の同根のコバ「ゆらゆら・ゆるゆる」などの擬音語・擬態語や「揺らぎ・揺らす・許し・緩り・寛やか・豊か・余裕(融通)……などの感じを思い浮かべると、「ゆるめ」の感じがはっきりしてくる】こと、また【「ほぐし」は「ほどき・ほぐし」と同じコバである。「ほどき」はもとも「ほとき」と清音で、「ほ」の状態になるように解くことである。(中略)「ほどき」の自動詞形は「ほどけ」で、もともとは「ほとけ」であった。この「ほとけ」こそ、実は「仏(ほとけ)」の語源なのである】という野口流の和語解釈を通じて、その発音体感から伝わる「からだ語のメッセージ」が語られています。たとえば、他動詞の「とく・ほどく、ゆるす・ゆるめる」には、固く縛った靴の紐を自分で解く(解く)、自分の意思で相手を許す、努力してからだを緩めるニュア

スがあります。これに対して、自動詞の「とける・ほどけ(る)・ゆるむ」には、靴の紐が自然に解けた、気づいたらからだが緩んでいたなど、無意識(他力)のイメージがあります。

それは、自力で心の自縄自縛を「ほど(解)」くのか、あるいは自力にこだわる執着を「はな(放)」ち、自然に「ほどけ(解)る」はからい(絶対他力)に任せるのかの違いです。

同じように、自分の意志や努力で「ゆるす(許す・赦す)・ゆるめる(緩める・弛める)」のと、自然に「ゆるむ(緩む、弛む)→ゆるんだ」のでは、ニュアンスが大きく異なります。

相手を絶対に「ゆるさない(ゆるせない)」人は、実は「相手をゆるしてもよい」と思うころを自分が「ゆるさない」、「相手をゆるさない」ところが「ゆるまない」のです。「相手をゆるせない」ころは、釣り上げた目尻、眉間に寄せた皺、怒らせた両肩など、どうやっても「ゆる(緩)まない」、あるいは「ゆる(弛)めない」からだにあらわれます。

(武蔵野大学仏教文化研究所非常勤研究員 原山 建郎)



本の紹介「13歳からの仏教」龍谷総合学園編(2013年4月、本願寺出版社、1200円+税)

親鸞聖人・浄土真宗の教えを建学の精神とする、本願寺派関係の学校(龍谷総合学園)は、全国に幼稚園から大学まで27学園70校があります。本書は、その中の中学生以上の生徒のために教えを学ぶテキスト「みのり」を、一般の中学生以上の人々のために再編集した書物です。『はじめに一なぜ今「仏教」なのか』で、冒頭「悩み」について、以下のように述べています。「子どもだからといって、悩みがないわけではありません。大人だからといって、悩みの解決方法がわかっているわけでもありません。昔の人は悩みがなく、今の人は悩みが多いわけでもありません。子どもも大人も、昔も今も、みんな悩みを抱えて生きています」。このような「悩み」や「迷い」から、スタートして以下の構成によって、親鸞聖人・浄土真宗の教えをわかりやすく解説しています。

●第1章: 仏教はお釈迦様の教え、まずはお釈迦様について知ろう(本当の幸せて何だ?、「四諦八正道」って何?、「縁起」っていい悪いじゃないの?、涅槃(入滅)について、慈悲の心—金色の鹿について等)

●第2章: 浄土真宗を知るために親鸞聖人を知ろう(回峯行(千日回峯行)について、人生の師と出あった、法然聖人について、お坊さんだって結婚するんだ、人生山あり谷あり—親鸞聖人の人生…、改心した山伏弁円、南無阿弥陀仏を称えてみよう、浄土って天国のこと?、等)

●付 録: 浄土真宗の1年を体験してみよう(花まつり、宗祖降誕会、お盆、彼岸会、成道会、除夜会、元旦会、木蓮尊者の物語、涅槃会、等)

私たちが、日頃、疑問に思っていることなどを、やさしく解説しているこの本は、子供たちだけでなく、私達大人が、親鸞聖人・浄土真宗の教えを正しく学ぶ「テキスト」としても最適だと思いました。

平成26年9月～11月 壮年会行事

9月の行事

6日(土) 15時に変更 壮年会法座 テーマ「お墓」
20日(金)～26(日) 秋季彼岸会
23日(火) 13時 彼岸会法要
秋分の日(祝) ※当日お手伝い頂ける方は12時までにお集りください。

10月の行事

25日(土) 13時半 第26回 文化講演会
講師: 姜尚中師(聖学院大学学長)

11月の行事

8日(土) 10時 お仏具磨き・清掃奉仕
13時半 婦人会・壮年会 合同法座
20日(木) 17時 報恩講速夜法要
※当日お手伝い頂ける方は15時までにお集りください。
21日(金) 11時 報恩講日中法要
講師: 池田行信師(栃木県 慈願寺)
※当日お手伝い頂ける方は10時までにお集りください。

編集後記 (壮年会だより: 平成26年9月「秋号」会報)

皆様方からのご投稿により、本号も充実した紙面とすることができました。次号(12月発行予定)も引き続き皆様のご投稿をお待ちしています。どうぞよろしくお願いします。

壮年会だより

平成26年9月 秋号 中原寺仏教壮年会だより Vol. 13



秋の候ではありますが、残暑去りがたい日々、皆様は如何おすごしですか? 7月には第23回の門信徒ファミリーパーティーが盛大に、8月には盂蘭盆会法要がおごそかに行われました。

安倍首相は、7月に憲法解釈を変える集団的自衛権の閣議決定をしましたが、多くの国民は、これが戦争のない世界実現への方向なのか不安に思っています。私たちは目先だけにとらわれる事なく、念仏申す信心を続け、阿弥陀様の本願にお任せする平和な世界をお誓いしましょう。

【住・職・閑・話】



ここ最近、地方議会が何かと話題になることが多いですが、その中でもズバ抜けたインパクトを残したのは号泣会見で有名になった兵庫県議会議員でしょう。そのインパクトは国内のみならず、海外でも大きく報じられることになりました。

会見のなかで県議は「日本における喫緊の問題である少子化問題、高齢者問題を少しでも解決すべく今まで活動してきた。そういった大きな問題の前では政務調査費、政務活動費の不明瞭な報告は極々小さな問題であるので、なんとか折り合いをつけさせてもらいたい。(後に訂正・謝罪)」という趣旨の発言をしました。

当初、この会見を見た私は「何じゃそりゃ! そんな理屈通るわけじゃないか!」と思いましたし、その滑稽とともれる会見の様子から「相当の変わり者」という見方をしていました。

当然、彼のしたことは追求されるべきことではありますし、その償いもしなくてはなりません。

しかし、あれから2ヶ月近くが過ぎて少しばかり冷静に振り返ってみると、大きな問題の前で小さな問題に目をつぶって自らを正当化しているのは彼だけだろうか、私自身もそういう視点をもって暮らしているのではと反省すべきことがありました。

先日、坊守を駅まで送るために二人で車に乗っていました。その道すがら、私たちが乗った車の横を相当なスピードで一台の車が追い抜いていきました。それを見た私は「ああいう

平成26年7月の行事報告 July

◆7月27日(日)【第23回門信徒ファミリーパーティー】第1部=14時、第2部=3時50分

中原寺の夏のイベント、第23回門信徒ファミリーパーティーが今年も7月27日(日)に行われました。

お天気は、午後から雨の予報でしたが、他寺からの12名を加え、去年を上回る160余名の参加者となりました。

2時から始まった第1部の音楽会は、篠笛奏者、片野 聡氏によるソロ演奏、初めて聴く篠笛の音色のすばらしさに、楽屋裏でこの後の出番を待つ私たちも、思わず聴き入ってしまいました。続いて、ファミリーパーティーのハイライト「乙女座」公演(蓮如上人物語その1)です。

今年の出演者には、新たに婦人会より2名、女子大生2名、唯花ちゃんとお友達3名、それに、2歳で見事な初舞台を踏んだ慈俊ちゃん等、世代を超えた総勢18名の出演となりました。

今回は音楽会、乙女座、共に涼しい聞法会館で行われた為、参加された皆さんには移動の負担もなく良かったのではないのでしょうか。

第1部終了間際に小雨が降り始めましたが、雨雲の動きは

車はちゃんと警察が取り締まって、捕まるべきだ。」と話したら、助手席の坊守が「そうだね、でもこの道の制限速度は50キロだよ。」と答えました。その時、私は時速60キロで車を運転していたのです。私を追い越した猛スピードの車にばかり目を向けて、我がことは「これくらいは大丈夫」と思って自分を正当化していたことに恥ずかしくなりました。

親鸞聖人が著わされた正像末和讃に次のような和讃があります。

よしあしの文字をもしらぬひとはみな まことのこころなりけるを
善悪の字しりがほは おほそごとのかたちなり

(現代語訳)

善し悪しという文字を知らない人はみんな、真実の心を持った人です。善悪の文字を知ったかぶりして使う人は、かえって大嘘の姿をしているのです。

どうしても自己中心であるという思いを捨てきれない私たちは、それぞれに善悪の基準をもっています。各々その基準が違うのに自らの基準を人に押しつけようとしています。自分の基準によって定められた正義に反するものは、間違いなく不義であり悪だと決めつけ、厳しく攻撃します。しかし正義の反対にあるものは「他の人の正義」でもあるのです。

どこまでいっても自己中心的な思いの中に生き、外にばかり目が向く私ですが、ふとした時に自らを見つめ直す基準点を据えておかねければなりません。私の善悪などまったくもって頼りにならないものですから…。



市川方面から離れるとの情報を得て第2会場に移動、やがて雨も上がり、恒例の模擬店も大好評、今年新規に購入したかき氷機もフル回転、子供たちが夢中になってすくったスーパーボール、一喜一憂した抽選会、皆で踊った盆踊りと楽しい時を過ごしました。近年、特に若い人たちのお寺離れが進む中であって、こうした老若男女が集う催しはこれからのお寺の在り方として大事なことも知れません。前日から会場の設営や、模擬店の準備などスタッフの皆さん大変お疲れ様でした。

(福島 道宏 記)

